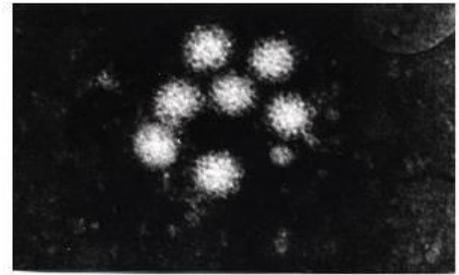


ノロウイルスについて



<特徴>

- 幅広い年齢層に、感染性胃腸炎を起こすウイルス
- 年間を通じて発生するが、特に冬季に多発
- 10～100個という少量で感染が起こる。
(患者の便や嘔吐物には1グラムあたり100万から10億個もの大量のウイルスが含まれる。)

<感染経路>

- ① ノロウイルスを含有したカキなどの二枚貝を、十分に加熱しないで食べることにより感染する。
- ② ノロウイルスに感染した人が、十分に手洗いを行わずウイルスが手に付いたまま調理をすると、食品が汚染され、その食品を食べることにより感染する。
- ③ ノロウイルスに感染した人の便や嘔吐物を処理した後、手に付いたウイルスや、不適切な処理で残ったウイルスが、ドアノブ、蛇口のトッ手、スイッチなどに付着し、さらにそこから人の手を介して口に入ることで感染する。



<主な症状>

- 潜伏期: 24～48時間
- 症状: 下痢、吐き気、嘔吐、腹痛、発熱などで、通常3日以内に回復するが、ウイルスは感染してから 1週間程度(長い場合は1ヶ月)便中に排泄される。

<予防方法>

- 加熱が必要な食品は十分加熱しましょう。(中心温度85℃以上で1分間以上)
- 十分に手洗いをしましょう。特に調理前やトイレの後、カキなどの二枚貝を調理した後は特に注意してください。
- カキなどを調理する際は、他の食品や調理器具が汚染されないよう注意してください。
- 下痢などの症状がある人は、食品を扱わないでください。ノロウイルスによる胃腸炎の場合、症状がなくなっても2週間程度は便にウイルスを排出するといわれていますので、症状がなくなっても注意してください。
- 患者の便や吐物はきちんと処理してください。処理するときは、直接触れないよう、また、オムツ交換や吐物の始末にあたっては、次亜塩素酸ナトリウム※による消毒、手洗いを十分にしましょう。※塩素系の漂白剤(使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。)
- 施設の管理者は、入所者や職員の健康状態の把握に努めてください。

<消毒方法>

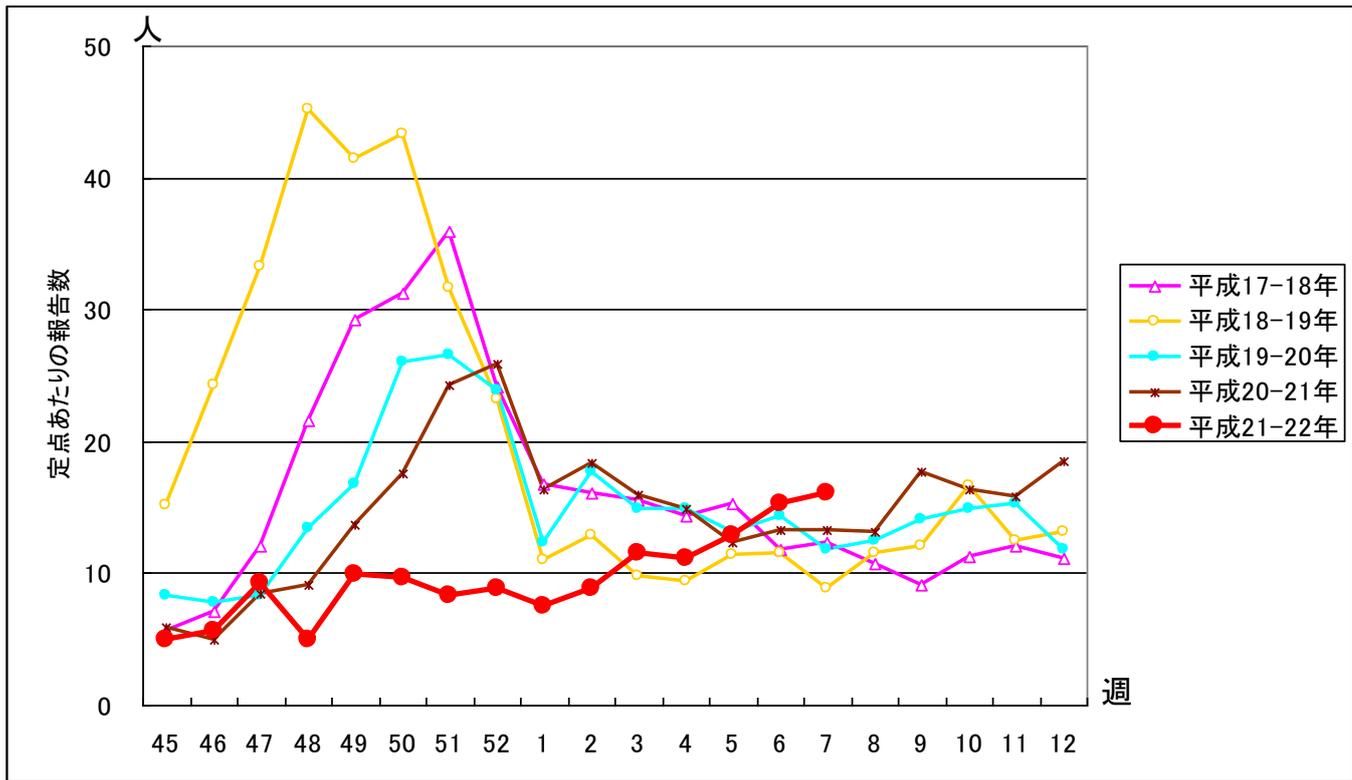
- 他の微生物などと比べると熱に強く、85℃で1分以上の加熱が必要。
- 逆性石けん、アルコールの消毒効果は十分ではなく、塩素系漂白剤の次亜塩素酸ナトリウムは効果がある。

(参考)

○厚生労働省ホームページ(ノロウイルスに関するQ&A)

<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html>

感染性胃腸炎発生動向



年 \ 月	11月				12月				1月			
	週 45	46	47	48	49	50	51	52	1	2	3	4
平成 17-18 年	5.64	7.14	12.00	21.55	29.23	31.27	35.86	24.18	16.73	16.05	15.59	14.41
平成 18-19 年	15.09	24.23	33.18	45.18	41.41	43.32	31.64	23.14	11.00	12.82	9.82	9.45
平成 19-20 年	8.36	7.77	8.36	13.41	16.77	26.00	26.50	23.86	12.27	17.64	14.86	14.82
平成 20-21 年	5.86	4.91	8.45	9.09	13.73	17.59	24.27	25.91	16.32	18.32	15.95	14.91
平成 21-22 年	4.91	5.68	9.23	5.00	9.95	9.59	8.32	8.86	7.50	8.86	11.59	11.09

※平成 21 年第 53 週は 5.64

年 \ 月	2月				3月			
	週 5	6	7	8	9	10	11	12
平成 17-18 年	15.27	11.73	12.36	10.77	9.05	11.32	12.09	11.09
平成 18-19 年	11.41	11.50	8.86	11.59	12.00	16.68	12.41	13.14
平成 19-20 年	13.09	14.32	11.86	12.45	14.05	14.82	15.27	11.73
平成 20-21 年	12.27	13.27	13.32	13.14	17.68	16.32	15.77	18.45
平成 21-22 年	12.86	15.27	16.05					

※網掛けは、各シーズンにおける最多報告数
(今シーズンは第 7 週現在)